

「写真短歌」知り親しんで

■ 山形市 黒沼貞志 73歳

写真を長年続けてきた私は最近短歌をたしなむようになり、写真も短歌もその作るプロセスに共通点があることに気付きました。そしてこの二つを合体して一つの作品にしたら面白いのではと考え、「情景を切り撮って詠う『写真短歌』」として紹介することを思い立ちました。

「何気ない一枚の写真に短歌を添えて発信力が増す魅力を紹介します」というキャッチフレーズを考えていたところ、ご縁があり山形市立図書館からありがたい計らいを頂戴し、昨年2月から本館1階に「写真短歌常設コーナー」を設けて作品を紹介しております。

季節を先取りした写真にやましん歌壇に掲載された短歌などを添えた写真短歌2作品を2カ月ごとに入れ替えて展示し、図書館を訪れる方々の息抜きの空間になればとの思いで継続しております。

また、1年間展示してきた12作品をこの2月22日か

ら1カ月間開催された「山形市立図書館2019年市民の出版物展」でまとめて展示する機会をいただき、写真短歌という分野の一端

を紹介することができました。

常設コーナーは2年目を迎える第7回(2〜3月)、第8回(4〜6月)の作品展示しております(現在は休館中)。山形新聞、市広報、メルマガやフェイスブックなどの紹介記事を見

て訪れた方や日々来館された方からご連絡をいただいて情報交流につながっております。

今後も展示を継続することで写真短歌の認知度が上がり、たしなむ方が増えるささやかな一歩なることを願っております。